

研修報告書No. 25

所 属：県外大学病院研修医

研修先：佐川町立高北国民健康保険病院

仁淀川町国民健康保険大崎診療所

今回、高北病院と大崎診療所で1か月間の地域医療研修をさせていただきました。佐川町は高齢化率が35%、仁淀川町は50%を超えているとのことで実際受診される方の多くが80歳以上でした。特に100歳を超えている方が歩いて元気に受診されている姿が印象的でした。

今回の研修では地域の病院の役割を垣間見ることが出来ました。病院を受診することが困難な方の訪問診療を行ったり、時にはレスパイトケア目的の入院を受け入れたりと大学病院とは異なる役割があることを再認識しました。また、今回指導していただいた先生方がご自身の専門分野だけでなく、それ以外の疾患も幅広く診られていることも印象的でした。大学病院では専門分野で細かく分かれているため、専門外の分野に関してはその分野の専門の先生に依頼することが多々ありました。しかし、地域の病院では専門の先生がいらっしゃらないことも多く、医師にはオールマイティーさが求められることを実感しました。

研修ではその他にもグラム染色や尿沈渣の検鏡、リハビリの実際の様子の見学、栄養指導の考え方など普段触れる機会が少ない経験をさせていただき、今後の医療に活かしていきたいと思います。

1か月間の研修を終えて感じたことは地域においては多職種間での連携がより重要になるということでした。地域にいくほど高齢化は進み医療を必要とされる方が多い反面、病院や医師の数は不足しているため、必然的に1人の医師にかかる負担が増加します。また、1人の医師が出来ることに関しても限度があります。今回の研修ではそのような部分を看護師の方が訪問看護を行ってその際の情報を医師と共有したり、ソーシャルワーカーの方と医師が頻繁に連絡を取り退院後の生活の調整を行ったりして補っていると感じました。将来的に地域で働く機会があった際には今回の経験を活かしていきたいと思います。

1か月間有難うございました。